

■調査概要

予期せず妊娠した経験のある女性に対して、その際の避妊の実施状況や意識について明らかにすることで、予期せず妊娠してしまう理由と、今後の避妊啓発施策の参考にすることを目的とし、インターネットにてアンケート調査を行った。その途中経過を報告する。

■調査期間

2012年7月～11月

■有効回答者数

41名

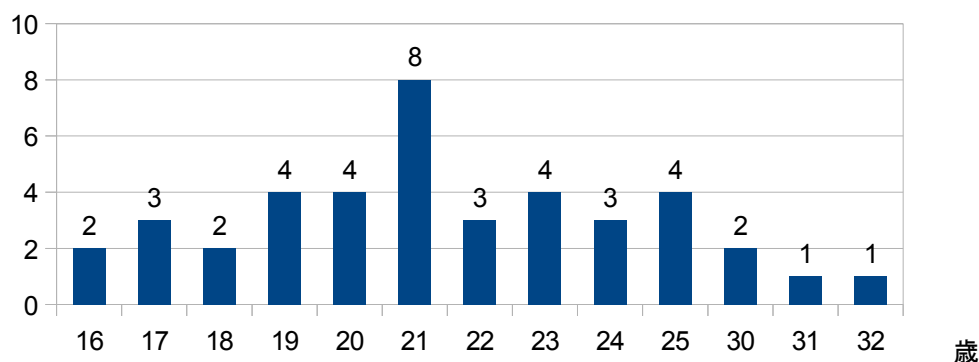
■現在の年齢

23歳～53歳(平均31.5歳)

■予期しない妊娠時の年齢

16歳～32歳(平均21.9歳)

予期しない妊娠時の年齢



■妊娠発覚時の職業 (人)

社会人1～3年目	13
短大・大学生	10
高校生	5
社会人4年目～	5
フリーター	4
経営者・自営業	1
その他	3
合計	41

■妊娠時の性交相手 (人)

交際相手	27
交際相手以外	6
結婚相手	5
分からない	2
婚約者	1
合計	41

予期せず妊娠した女性の意識調査(途中経過)

Q1.、Q2の集計結果は割愛

Q3.避妊法について、それぞれの失敗率(1年間同じ避妊法を継続した場合、100人の女性の内何人が妊娠するか)は、男性用コンドーム:3-14%, 膣外射精:4-18%, 安全日(オギノ式):1-25%程あり、確実な避妊方法ではないと知っていましたか？  
(最も当てはまるものを1つ選んでください)

	(人)
知っていた	21
なんとなく知っていた	18
全く知らなかった	2
合計	41

知っていた、なんとなく知っていたが大多数を占め、予期せず妊娠した女性の避妊法の不確実性の認識はあったと言える。

Q4. 妊娠を望んでいなかったのに、予期せず妊娠した際の避妊方法を教えてください。

	(人)
膣外射精を避妊方法として毎回避妊していたが、妊娠した	12
避妊方法について知ってはいたものの、毎回避妊をしなかった	11
男性用コンドームで毎回避妊していたが、妊娠した	6
安全日には避妊せず、危険日は男性用コンドームで避妊していたが、妊娠した	4
安全日には避妊せず、危険日は膣外射精で避妊していたが、妊娠した	2
安全日には膣外射精で、危険日は男性用コンドームで避妊していたが、妊娠した	2
低用量ピルを正しく服用していたのつもりだったのに妊娠した	1
かなり前のことで、パートナーに任せていたのではつきり覚えていません。	1
普段はコンドームで避妊することが多かったが、当日は膣外射精をしたため	1
避妊方法について知らなかったため、避妊しなかった	1
合計	41

妊娠時の避妊法として、膣外射精を避妊法としていた場合、毎回避妊をしなかった場合、男性用コンドームを毎回使用した場合と続く。

啓発においては、膣外射精の避妊の不確実性や毎回避妊することの大切さ、男性用コンドームでも失敗可能性があることを強調する必要性がうかがえる。

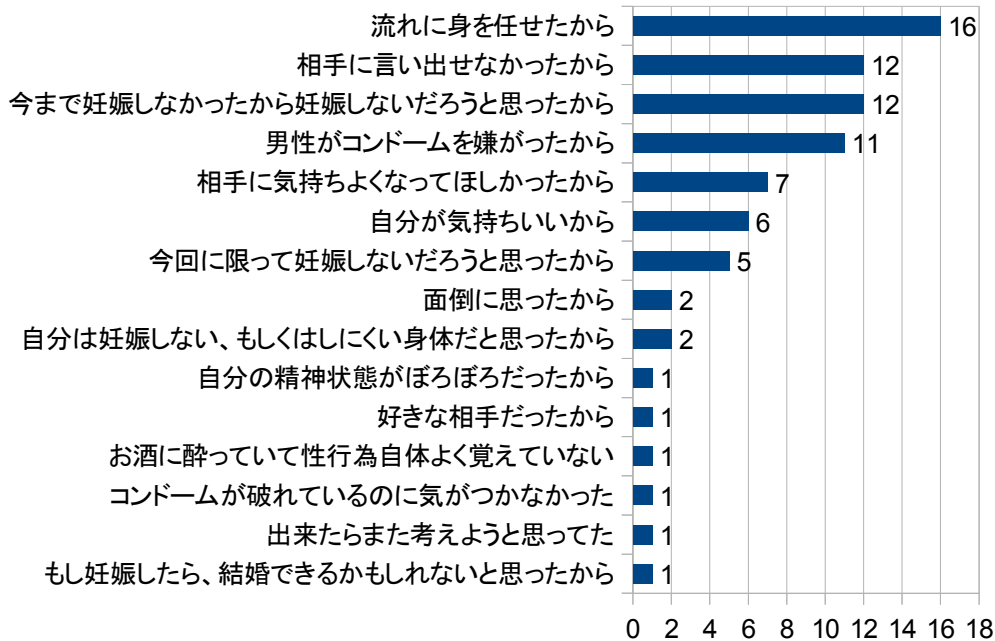
Q5. 設問4の避妊法について、妊娠しない自信はありましたか？

	(人)
妊娠しないと思っていた	6
妊娠する可能性は多少あると認識していた	34
妊娠する可能性は大いにあると認識していた	1
合計	41

8割近くの女性が妊娠する可能性が多少あると認識していた。

Q6. 設問5で妊娠可能性を認識していた方に質問です。なぜ妊娠を望んでいなかったのに、不完全な避妊法を実行、もしくは避妊をしなかったのですか？(複数回答可)

妊娠を望んでいなかったのに不確実な避妊法を実行、もしくは避妊しなかった理由



妊娠を望んでいなかったのに不確実な避妊法を実行、もしくは避妊をしなかった理由として、流れに身を任せた、相手に言い出せなかったなどの避妊を主張できなかったこと、今まで妊娠しなかったから妊娠しないだろうと思った、今回に限って妊娠しないと思ったという希望的観測、相手や自分の性感を優先したなどの理由が上位に来た。いずれも複数回答した場合が多く、多くは上記の3パターンの複合的な理由により不完全な避妊のまま性交に及んでしまうことがうかがえた。

Q7. 予期しない妊娠の後、どのような決断をしましたか？

	(人)
中絶した	30
子供を出産した	10
子供を出産したかったが、流産した	1
合計	41

Q7-2 その決断をした主な理由を教えてください。

(自由回答よりパターン分けを行い集計、重複回答有り)

<中絶選択者>

	(人)
経済的理由	7
精神的理由	6
学業・キャリア	4

予期せず妊娠した女性の意識調査(途中経過)

相手からの説得	3
相手に他パートナー有	2
交際相手以外の子供	2
親からの反対	1
その他	2

※回答者数n=20

(自由回答記述 一部抜粋)※()内は妊娠時の年齢

(精神的理由)

望んでいないから(19歳)

まだ若く子どもを持つことがイメージできなかった(25歳)

子どもがまだ1才4ヶ月で離婚した直後で生活と育児に自信がなかった(30歳)

子どもを出産・育てる覚悟がもてなかったため(30歳)

(経済的理由)

出産したかったが相手が認めてくれず、経済的にも一人で産める状態では

なかったから。相手が中絶費用を用意してくれた。(22歳)

経済的・社会的に子供を育てるのが不可能だから(18歳)

(学業・キャリア)

新たに関わるプロジェクトに参加するため、仕事を長期休むことが難しかった(21歳)

自分のキャリアのため(23歳)

(相手からの説得)

相手に中絶することを説得させられたのと、経済的に厳しいと判断したため。(21歳)

相手は遠距離でしかも定職についておらず、産みたいと言ったが断られたため。(22歳)

(交際相手以外の子供)

まわされて誰の子供か分からなかった(20歳)

<出産選択者>

(人)

中絶への抵抗感	3
結婚していた(するつもりだった)	2
経済力があつた	1
いつかは産みたいと思っていた	1

回答者数n=5

(自由回答記述 一部抜粋)※()内は妊娠時の年齢

中絶は考えられなかった(25歳)

結婚していたし、この命を殺す理由がうすっぺらく思えた(32歳)

自分で稼ぎ、経済力があつたから(24歳)

いつかは産みたいとおもってたし、これも何かの運命かとおもって。(25歳)

高校生の頃から母親に「万が一、妊娠が発覚したとしても、絶対中絶はさせない」と

言われていたこと、私自身もしたくなく、するつもりがなかったこと、

相手が中学生の頃からお付き合いをしている相手で、将来は結婚すると

お互い思っていたため。(19歳)

Q8. 相手の男性との関係はどうなりましたか？

(人)

予期せず妊娠した女性の意識調査(途中経過)

結婚しなかったし、別れた	21
結婚し、今も続けている	13
結婚はしなかったが、交際は続けている	4
結婚し、離婚した	3
合計	41

Q9. 妊娠が発覚してから、産婦人科医から避妊の指導はありましたか？

(人)

特になかった	20
少し説明があった	7
詳しく説明があった	4
詳しく説明があり、低用量ピルを薦められた	8
覚えていない、分からない	2
合計	41

Q10. 予期しない妊娠の後、避妊法を見直しましたか？(複数回答可)

(人)

毎回必ずコンドームをつけるように見直した	16
低用量ピルの服用を始めた	10
特に変わらなかった	9
直後はコンドームやピルを使ったが、しばらくしてから不完全な避妊方法に戻った	6
性交渉自体をしなくなった相手にコンドームをつけるように促したが、聞き入れてもらえなかった	3
しばらくして出産したいと思うようになり、中絶の2年後に妊娠・出産した	1

回答者数n=40

予期せず妊娠したとしても、特に変わらなかった、直後はコンドームやピルを使ったが、しばらくしてから不完全な避妊法に戻ったという割合も半数弱存在する。

Q11. 予期しない妊娠と産む・産まないの決断の後、どのように感じたり、今までの考え方が変わったりしましたか？自由に記述してください。

(自由回答記述 一部抜粋)※()内は妊娠時の年齢

<中絶経験者>

精神的苦痛

- ・中絶後、「男性も同罪なのに、これっぽっちも痛みを負わない、そして自分がこんなに辛い思いをしたのに変わらない」と悲しくなり、「人の命を自分の手でなくす決断をした」という
- ・罪悪感にさいなまれた。(20歳)
- ・毎日が辛く、我が子を殺したこと自分を責め続け、10年以上経った今でも罪の意識は全く消えることなく残っています。私のような思いをする女性が、1人でも減るよう祈っています。(19歳)
- ・こどもと自分を傷つけてしまって、罪悪感に苛まれた。産んでいたら今何歳かな、毎年思い出します。
- ・セックスに関する自己責任を強く意識するようになりました。(23歳)

## 予期せず妊娠した女性の意識調査(途中経過)

- ・中絶して、自分で一人の人間の人生を奪ってしまったことへの罪悪感から、
- ・身体のことをきちんと知ろうと学ぶようになりました。(24歳)
- ・馬鹿なことをしてしまった、と悔やんでも悔やみ切れなかった。(21歳)
- ・自分で育てられなくても、里子に出すなどのことを考えればよかった。乳児院という施設のことを最近知った。産めばよかった。自分は殺人犯だと思う。殺人を犯した私が人並みの人生を歩むことは許せない。結婚せず、子どもも産まないで生きていこうと思っている。(19歳)
- ・馬鹿だったと反省した。後悔している。(21歳)
- ・無責任なことをしてしまったと後悔した。(22歳)
- ・リスクなセックスを日常的にしているのに妊娠を免れた友人もたくさんいて、なぜ自分だけが辛い目に遭うのかわからないし、たまたま運が良かっただけの彼女らに噂のネタにされるのは耐えられなかったし、すべてが理不尽だと感じた(18歳)
- ・取り返しのつかない事になり、鬱病を患った。いつになるか分からないが、必ず元気な赤ちゃんを産むと決意した。10年後、一児の母になれた今が本当に幸せです。(17歳)
- 自分の体も心もすごく傷ついたし、産まれてこれなかった命のことも今でも考える。二度とこのような事にならないようにしなくちゃいけないと思う。(23歳)
- ・産まない決断をしたのでつらかった。子供を持ちたい。(20歳)
- ・中絶したことに対する罪悪感がまだ消えません。自分に避妊の知識があっても、相手にそれがないと望まない妊娠をすることがあると痛感しました。(30歳)

### 避妊の意識の高まり・中絶を繰り返したくない意識

- ・確実な避妊について、そして無防備な性行為について他人事ではなくしっかりと考えるようになりました。(31歳)
- ・実際に産んでみて、色んな事の必要性や大変さがわかった。産んでみて何とかしようと考えていた若かった頃の自分に、無理だよって教えてあげたい。高年齢での避妊も大事な気がしている。(20歳)
- ・誰でも、どんなときでも、妊娠する可能性はあるんだと強く感じるようになった。二度と繰り返したくないという思いから、相手には必ず避妊具を使うように伝えている。(24歳)
- ・避妊は必ずしなければいけないし、次妊娠したら必ず産もうと思った。(16歳)
- 自分の体も心もすごく傷ついたし、産まれてこれなかった命のことも今でも考える。
- ・二度とこのような事にならないようにしなくちゃいけないと思う。(23歳)
- ・中絶も人ごとではないと、当たり前前ことに気づかされました。(21歳)
- ・今は子供が可哀想なので避妊リングしています。(20歳)
- ・簡単に中絶してはいけない(21歳)
- ・もう二度と殺したくないなと思った(21歳)
- ・中絶して、自分で一人の人間の人生を奪ってしまったことへの罪悪感から、身体のことをきちんと知ろうと学ぶようになりました。(24歳)
- ・妊娠が怖くなりピルを服用し続けている(30歳)
- ・本当に生涯を共にすると決めた相手以外とは、きちんと避妊しなければならないと思った。すぐすぐつらかった。(22歳)

### 次回の出産意向の高まり

- ・子供を墮胎したことで、パートナーの意識の低下を感じました。墮胎しても流産しても、相手は痛くないですもんね。私は次は何がなんでも産みたい！と思いました。(16歳)
- ・次、妊娠したら出産しようと思った。(17歳)

### その他

- ・今自分の前から、彼がいなくなるのは本当に耐えられない。(21歳)
- ・罪悪感を感じるだろうと思っていたが、中絶後、まったく罪の意識はなく、そんな自分にびっくりした。ただ、命をひとつ消したという事実には変わりなく、これを背負って生きていこうと決意した。中絶後は、周囲に実は中絶したことがあるという女性が多くいることが分かり、みな誰にも相談できず苦しかった。私はそれ以来、自分の中絶経験も人に話すようになりました。(25歳)
- ・変化なし(19歳)
- ・性交渉が怖くなった(17歳)

### ＜出産経験者＞

#### 避妊の意識の高まり

- ・何も考えていなくても妊娠してしまうことが分かったので、以後互いに望まない妊娠をしないための努力をするようになりました。(23歳)
- ・今となっては産んでよかったと心から思えるが、当初は不安が大きくて、もう少ししっかり避妊して計画しておけばよかったかな、と思っていた。今は性交渉することもないですが、今度そういう場面がきたらキチンと妊娠希望するかコミュニケーションを取りたいと思います。(25歳)

#### 啓蒙の必要性

- ・もっと子育てって本当に大変だってことを啓蒙すべきと思った(23歳)
- ・不確かな情報(膈外射精なら妊娠しない、など)しか持ち合わせていない状態でセックスをすることは愚かなことであると思った。子どもにはきちんと性教育をさせ「セックスは子どもを作るための行為である」ということを認識させようと思う。(19歳)

#### 出産への幸福感

- ・妊娠がわかったときは、できちゃった！ どうしよう…となりました。その後結婚し、子供も1人増え幸せに暮らしています。ですが後悔でなく、ふと、あの時に産まなかったら今頃どうしてだろう。というのは、たまに考えたりします。(21歳)
- ・今産んで良かったと思ってます。私を支えてくれる存在になっています。(32歳)

#### その他

- ・妊娠と出産について後悔はしなかったが、結果的に離婚したので結婚については失敗だと思っている。愛と恋とsexと妊娠と子どもと全てを一人の男に求めるのは無理だと、ワタシたちの年代の女はわかっていると思う。(25歳)
- ・結果的には、産んで良かったと思いますが、そう思えるまでにとても苦しみました。相手は全く罪悪感はなく幸せだと言っています。しかし、もし私が中絶を選んでいたら、彼も自分の行動を見直すきっかけになっていたかもしれませんが、その機会は失われました。彼には、もっと自省してほしいとは思いますが、子どもを持てたことは私の人生を大きく変えてくれました。自己中心的で無知だった私の考えは変わりました。予期せぬ妊娠は、そうでない妊娠に比べ、準備が足りない分苦しみは大きいです。ですが、その他は普通の妊娠と変わりません。(22歳)
- ・法律婚と言う制度の中でなければ、子どもを産むと言う選択がなかなかできない現実を目の当たりにし、泣く泣く法律婚(姓の変更)をし、出産をした。(24歳)

**中絶を選択をした人の中には後悔や罪悪感を感じている記載が多く見られた。**

**その中で、次回の妊娠では必ず産もうという決意と、もう二度と同じことはしたくないという思いを回答する人が多かった。**

**予期しない妊娠で中絶を選んだ人も、出産も選んだ人も、そのことをきっかけに本人自身は避妊の意識が高まった場合が多いようだが、パートナーの意識の変化のなさに悩む事例も見られた。**

**中絶しても全く変化がなかったと答える人もいたが、ごく少数だった。**

### ■今後の避妊啓発施策における提言

今回の調査で、妊娠を望まないにも関わらず避妊に失敗した理由として、大きく4つの要因があると示唆できた。

- 1) 避妊法に対する知識が不足、不確実、もしくは誤解があること
- 2) 避妊法や避妊未実行に対する不確実性を認識しながら、相手に避妊を主張できないこと
- 3) 避妊法や避妊未実行に対する不確実性を認識しながら、今回に限っては大丈夫と根拠なく希望的観測を過信してしまうこと
- 4) 相手や自分の性を追及してしまうこと

- 1)に関しては、正しい避妊についての知識(特に膈外射精やリズム法の不確実性)の啓発、
- 2)に関しては、相手に流されずコンドーム装着の提案や交渉の方法の具体的な提示、低用量ピルによる女性主体の避妊方法の啓発、及び男性側への避妊の知識の啓発、
- 3)に関しては、実際の体験談等から、「いつだれしものが起こりうることである」と啓発すること、
- 4)に関しては、快感の先にある自分とパートナーのリスクを想起させることや、快感をともなう性行為以外の愛情表現や男女交際のメリットの啓発が有効であると考察する。

予期しない妊娠で中絶を選択する要因として、その後のキャリア形成を含めた経済的な要因や、母親となる心の準備ができていない精神的な理由、相手や親からの非協力など、複合的な要因が見受けられた。出産を選択した人の回答数が少なかったが、中絶への抵抗感や、結婚していた、もしくはするつもりだったという要因が大きいように思われた。

今回の調査でご協力いただいた方の生の声を積極的に活用し、今後の啓発活動に役立てたい。貴重な回答を聞かせてくださった協力者の皆様に感謝いたします。

※本調査結果を無断で引用・転載することを禁じます。

© 避妊啓発団体ピルコン